Hitachi Koki

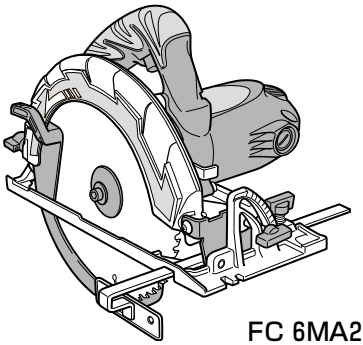
取扱説明書

ブレーキ付
日立丸のこ

形　名

FC 6MA2・FC 7MA2
FC 6BB2・FC 7BB2
［チップソー付］

このたびはブレーキ付日立丸のこをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

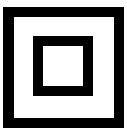


FC 6MA2

用　途

- 各種木材の切断
- 各種化粧板、薄物樹脂板、軟質新建材の切断

二重絶縁



はじめに
電動工具の安全上のご注意 ……1
二重絶縁について ……4
丸のこの使用上のご注意 ……4
各部のなまえ ……7

準備
ご使用前の準備 ……7
ご使用前の点検 ……9
各種調整方法について ……11

使いかた
直角に切断する ……13
傾斜切断する ……15
のこ刃の取りはずし・取付け ……17

その他
点検・お手入れする ……19
別売部品の紹介 ……20
故障かな…というときは ……21
仕様 ……21
アフターサービスについて ……22

HITACHI

⚠警告、⚠注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

電動工具の安全上のご注意

- **火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠警告

① 作業場は、 いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。

② 作業場の周囲状況も考慮してください。
- 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
- 作業場は十分に明るくしてください。
- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

③ 感電に注意してください。
- 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
  （例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

④ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。

⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

⚠警告

⑥ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。
- 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
- 指定された用途以外に使用しないでください。

⑧ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
- 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
- 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

⑨ 保護メガネを使用してください。
- 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。

⑩ 防音保護具を着用してください。
- 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。

⑪ コードを乱暴に扱わないでください。
- コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。

⑫ 加工する物をしっかりと固定してください。
- 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。

⑭ 電動工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
- 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
- コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機（株）の修理窓口に依頼してください。
- 延長（継ぎ）コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。

⑮ 次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用しない、または、修理する場合。
- 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
- その他、危険が予想される場合。

⚠警告

⑯ 調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。

- 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った延長（継ぎ）コードを使用してください。

- 屋外で延長（継ぎ）コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機（株）の修理窓口に依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、修理をお買い求めの販売店、または日立工機（株）の修理窓口に依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作ができなくなった電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店、または日立工機（株）の修理窓口にお申し付けください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

⊡二重絶縁について

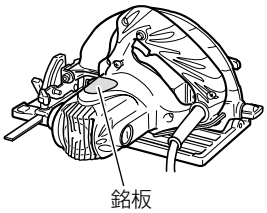
電気の流れる所と本体との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されていることを言います。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されていて感電しにくくなっています。
お求めの丸のこは二重絶縁をしてあり、銘板に ⊡ マークで表示してあります。異なった部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。
電気系統の分解、組立や部品の交換はお買い求めの販売店、または日立工機（株）の修理窓口にご用命ください。

丸のこの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、丸のことして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。



- 表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。

② 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。

- のこ刃が露出していると、けがの原因になります。

③ のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が下記の値以下ののこ刃は使用しないでください。

- 保護カバーの覆いが不完全となり、けがの原因になります。

使用できるのこ刃は、

FC 6 MA2 ・FC 6 BB2 の場合　外径 160 ～ 165 mm
FC 7 MA2 ・FC 7 BB2 の場合　外径 180 ～ 190 mm
} です。

また、のこ刃は、歯底径が

FC 6 MA2 ・FC 6 BB2 の場合　134 mm以下
FC 7 MA2 ・FC 7 BB2 の場合　162 mm以下
} は、使用しないでください。

⚠警告

④ **切断する材料は、安定性のよい台に置いてください。**
- 台が不安定であると、けがの原因になります。

⑤ **切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。**
- のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。

⑥ **材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。**

また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの 3 倍以上にしてください。
- このような台がないと、けがの原因になります。
（8 ページの図を参照してください。）

⑦ **使用中は、本体を確実に保持してください。**
- 確実に保持していないと、本体が振れ、けがの原因になります。

⑧ **使用中は、のこ刃や回転部、切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。**
- けがの原因になります。

⑨ **切断途中で、のこ刃を回転させたまま本体を戻さないでください。必ずスイッチを切り、回転が完全に止まってから本体を持ち上げるようにしてください。**
- 回転させたまま本体を戻したり、持ち上げると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。

⑩ **ベンチスタンドを使用する場合は、スタンドを固定してください。**

また、接触予防装置を必ず取付けてください。
- ベンチスタンドがぐらついたり、接触予防装置がないと、けがの原因になります。

⑪ **使用中、本体の調子が悪かったり、異常音がするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店または日立工機（株）の相談と修理の窓口に点検・修理を依頼してください。**
- そのまま使用すると、けがの原因になります。

⑫ **誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃や本体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。**
- 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⚠注意

① **刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。**
- 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。

② **のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。**
- のこ刃が破損し、けがの原因になります。

③ **使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。**
- 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

④ **作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、本体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。**
- 異常があると、思わぬ動きをして、けがの原因になります。

⑤ **ブレーキが働くときの反発力に注意してください。**
- 本体を落としたりし、けがの原因になります。

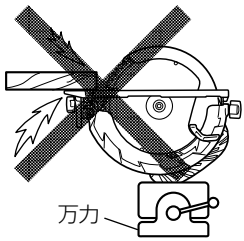
⑥ **切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。**
- 強い反発力が生じ、けがの原因になります。

⑦ **材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。**
- 刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。

⑧ **切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に乗せたまま作業しないでください。**
- 手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。

⑨ **回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。**
- 感電の恐れがあります。

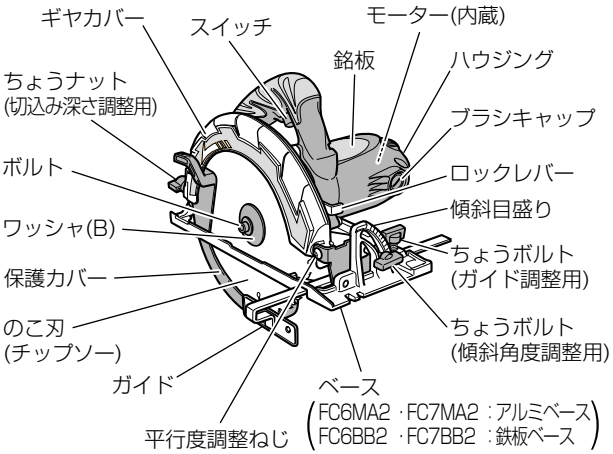
⑩ **本体を万力などで保持した使い方はしないでください。**
- 不意の接触などで、けがの原因になります。



⑪ **高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。**
- 材料や本体などを落としたとき、事故の原因になります。

⑫ **回転させたまま、台や床などに放置しないでください。**
- けがの原因になります。

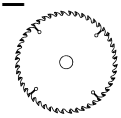
各部のなまえ



イラストは FC 6MA2 です

付属品

チップソー　1枚



形 名	外径	チップ幅	のこ身厚さ	歯数
FC 6MA2 FC 6BB2	165mm	1.6mm	1mm	52枚
FC 7MA2 FC 7BB2	190mm	1.6mm	1mm	52枚

六角棒スパナ　5mm 1個
2.5mm 1個

ガイド　1個

ご使用前の準備

●作業場は整頓をし、明るくしてお使いください

●漏電しゃ断器の設置をおすすめします

万一の感電防止のため、漏電しゃ断器の設置をおすすめします。

●延長(継ぎ)コードを使う場合

⚠警告

- 延長(継ぎ)コードは損傷のないものを用意してください。

電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。
右表は使用できるコードの太さ(導体公称断面積)と、最大の長さです。

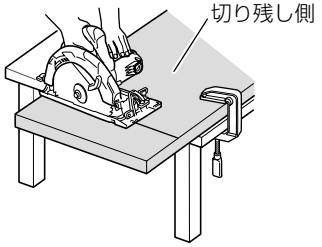
コードの太さ(mm²)	最大の長さ(m)
1.25	10
2	15
3.5	30

●作業台を用意します

のこ刃が材料の下面より出ますので、作業台の上に置いて材料を切断します。

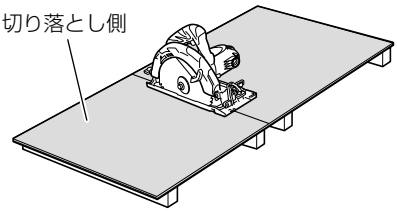
⚠警告

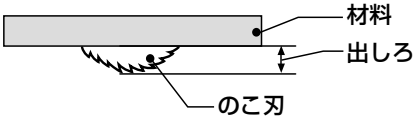
- **切断する材料は、安定性のよい台に置いてください。**
  台が不安定であると、けがの原因になります。
- **切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。**
  のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。
- **材料の切り残し側を、しっかり押さえてください。**
- **バイスで固定するなどしてしっかり押さえれば、両手で作業することができます。**



⚠警告

- **材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台又は角材を設けてください。**
- **角材などを利用する場合は、地面の平らなところを選び、角材を固定してください。**
- **切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの 3 倍以上にしてください。**
  このような台がないと、けがの原因になります。





ご使用前の点検

⚠警告

• 使用前に次のことを確認してください。手順❶、❷、❹～❻については、電源プラグをコンセントに差し込む前に確認してください。

注 • 切断トイシは使用できません。
• 木材以外を切断すると、ベース面に傷が付きやすくなります。

1 スイッチが切れていることを確かめます

●スイッチが入っているのを知らずに、電源プラグをコンセントに差し込むと、不意に動き思わぬけがの原因になります。
スイッチは引くと入り、離すと切れます。

2 電源を確かめます

●お求めの丸のこは100Ｖ用です。200Ｖ電源に接続すると、モーターの回転が異常に高速となり、破損するおそれがあります。
また、直流電源で使用しないでください。丸のこの損傷をまねくだけでなく危険です。

3 コンセントを確かめます

●コンセントががたついたり、電源プラグが抜けるようだと修理が必要です。そのまま使用すると危険です。電気工事店にご相談ください。

○騒音防止規制について

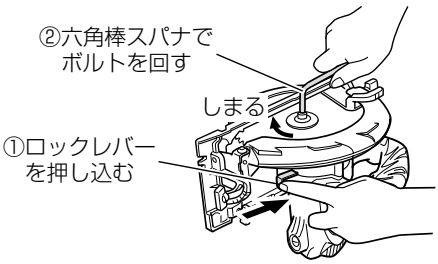
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないようにご使用ください。

⚠警告

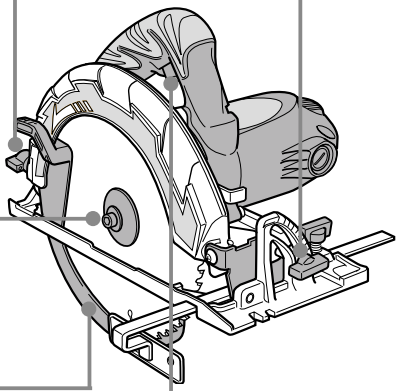
• のこ刃の締付けボルト、切込み調整用ちょうナット、傾斜調整用ちょうボルト等がゆるんでいると、けがの原因になります。

4 のこ刃の締付けを確かめます

●ロックレバーを押し込みながら、付属の六角棒スパナ（5mm）でボルトを時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。その状態のまま締付けます。



5 切込み深さ調整用ちょうナット、傾斜角度調整用ちょうボルトの締付けを確かめます



注 のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。

6 保護カバーの動きを確かめます

●保護カバーは、身体がのこ刃に触れるのを防ぐものです。
●必ずのこ刃をおおうように円滑に動くことを確認してください。

7 ブレーキがかかることを確かめます

●この本体はスイッチを切ると同時に、のこ刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。
●ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

⚠警告

• 保護カバーは、絶対に固定しないでください
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。

⚠注意

• ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
本体を落としたりし、けがの原因になります。

注 ❹ロックレバーが元の位置に戻らない場合、❻保護カバーが円滑に動かない場合、❼ブレーキが正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店または日立工機（株）の修理窓口に修理を依頼してください。

各種調整方法について

⚠警告

- **調整の際は万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**

●平行度の微調整

ベース側面とのこ刃の平行度を平行度調整ねじで微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、平行度が狂っていた場合は次のように調整してください。

注 **平行度調整後、切込み深さの調整を行なうと、平行度が若干狂う場合があります。切込み深さを調整後、平行度の調整を行ってください。**
(P13 ❶参照)

1 ギヤカバーヒンジ部の固定ねじを付属の六角棒スパナ(2.5 mm)でゆるめます。

2 保護カバーをギヤカバーの中に引き込みます。

3 のこ刃のベース後方側に木片を当て、ベース側面位置に目印を付けます。

4 目印を付けた木片をベース前方側に移動し、平行度調整ねじを⊕ドライバーで回して目印がベース側面に合うようにします。

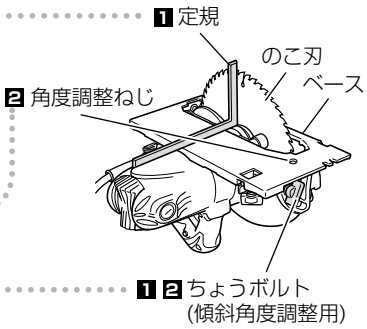
5 調整後、固定ねじをしっかり締付けます。

●直角度の微調整（FC 6MA2 、FC 7MA2 ）

直角度（ベースとのこ刃の角度）は、工場出荷の際に調整してありますが、角度が狂っていた場合は調整してください。

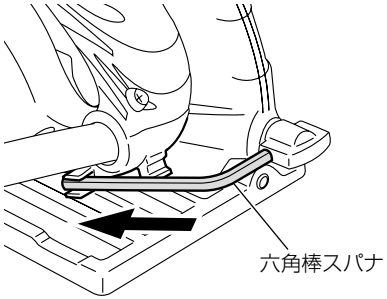
1 ちょうボルト（傾斜角度調整用）をゆるめ、ベース底面とのこ刃に定規を当てて直角度を出し、ちょうボルトを軽く締めます。

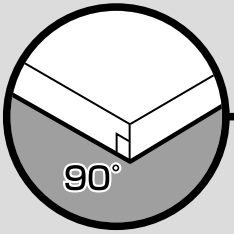
2 角度調整ねじの先端がベースの金属製部品に当たるまで、六角棒スパナ（3mm）で角度調整ねじを回し、ちょうボルトをしっかりと締付けます。



●六角棒スパナ（5 mm）の収納方法

のこ刃の取りはずし・取付けに使用する六角棒スパナ（5 mm）はハンドル部に収納できます。（購入時はガイドと一緒に袋に入っています。）





直角に切断する

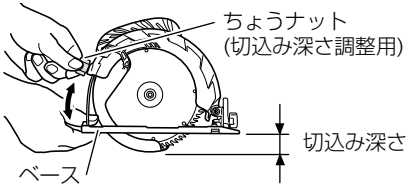
切断面を直角に切断します。

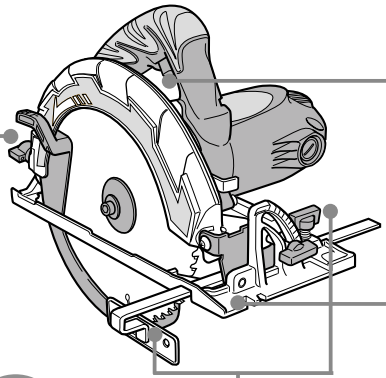
⚠警告

- 万一の事故を防止するため、❶～❸はスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて調整してください。
- ❶、❷は調整後、ちょうナット、ちょうボルトを十分に締付けてください。
  ゆるんでいると、けがの原因になります。
- 保護メガネを使用してください。

1 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整します

●ちょうナット（切込み深さ調整用）をゆるめ、ベースを上下させて調整し、ちょうナットを固く締付けます。

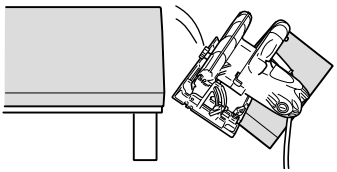




注 • 切断を始める前に、ベース面とのこ刃が直角になっている事を確認してください。（P12 直角度の微調整参照）

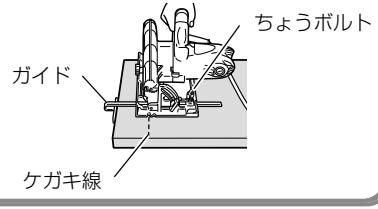
⚠警告

- 材料の切り落し側を、丸のこの進行方向に対し右側になるようにしてください。
  左側になると切り落し時、材料と共に丸のこが落下し、けがの原因になります。



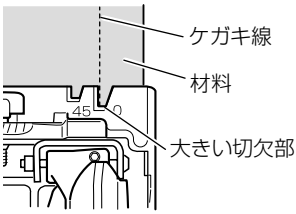
2 材料端面と平行に切るときは付属のガイドを使用します

●ちょうボルト（ガイド調整用）をゆるめ、ガイドを上記イラストと同じ向きに差し込み、左右に動かして切断位置を調整します。

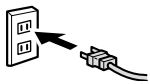


3 ケガキ線に合わせます

●材料の上に本体（ベース）をのせ、ケガキ線にベース前部の切欠部を合わせます。大きい切欠部（0°傾斜時使用）を目安にしてください。



4 電源プラグをコンセントにさしこみます



⚠注意

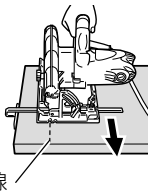
- 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。

注 • 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。

5 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進めます

●のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま本体をゆっくり前方に進め、切り終るまでこの状態を保つようにします。

●ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



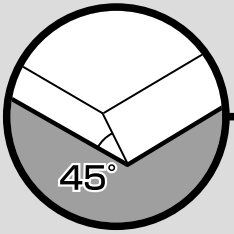
⚠警告

- **作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **使用中に異常音や異常振動など本体の調子に異常を感じたときは、直ちにスイッチを切り、点検・修理に出してください。**
- **切断中に本体をこじったり、強く押しすぎないでください。本体をまっすぐに静かに進めるようにしてください。**
  反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、のこ刃の寿命を短くします。
- **のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。**
  けがの原因になります。

●スイッチについて

連続運転する場合

スイッチをいっぱいに引いた状態でストッパを押すと連続運転になります。スイッチを切るときは、もう一度スイッチを引き、ストッパがはずれてから指を離します。



傾斜切断する

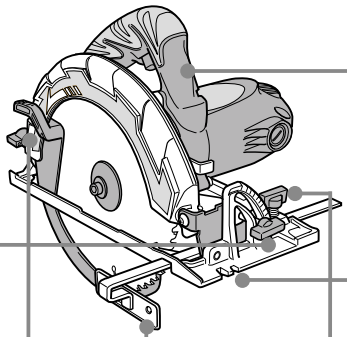
切断面を最大 45 ° まで傾斜切断できます。

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、❶～❹はスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて調整してください。
- ❶～❸は調整後、ちょうナット、ちょうボルトを十分に締付けてください。
  ゆるんでいると、けがの原因になります。
- 保護メガネを使用してください。

1 傾斜角度を調整します

●ちょうボルト（傾斜角度調整用）をゆるめ、傾斜角度を調整します。のこ刃をベースに対して、最大 45 ° まで傾けることができます。
●ちょうボルト締付け部に 5 ° 刻みの傾斜目盛が付いています。正確な角度で切断したい場合はベースとのこ刃の角度を定規で測定してください。



2 切込み深さを調整します

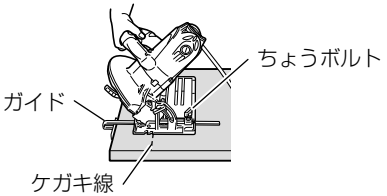
●傾斜すると切込み深さが浅くなりますので、切断する材料の厚みを確認して切込み深さを調整してください。
●ちょうナット（切込み深さ調整用）をゆるめ、ベースを上下させて調整し、ちょうナットを固く締付けます。（P13の❶参照）

⚠ 警告

- 材料の切り落し側を、丸のこの進行方向に対し右側になるようにしてください。
  左側になると切り落し時、材料と共に丸のこが落下し、けがの原因になります。

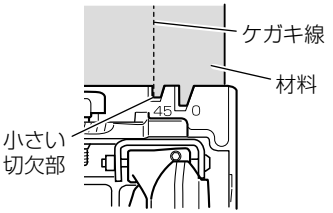
3 材料端面と平行に切るときは付属のガイドを使用します

●ちょうボルト（ガイド調整用）をゆるめ、ガイドを上記イラストと同じ向きに差し込み、左右に動かして切断位置を調整します。

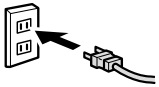


4 ケガキ線に合わせます

●45°傾斜するときは　材料の上に本体（ベース）をのせ、ケガキ線にベース前部の小さい切欠部を目安に合わせます。



5 電源プラグをコンセントにさしこみます



⚠注意

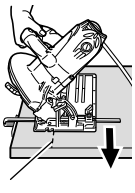
- 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。

注 • 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。

6 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進めます

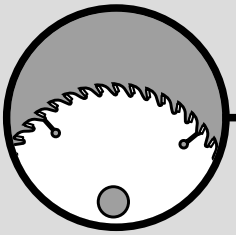
●のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま本体をゆっくり前方に進め、切り終るまでこの状態を保つようにします。

●ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



⚠警告

- **作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **使用中に異常音や異常振動など本体の調子に異常を感じたときは、直ちにスイッチを切り、点検・修理に出してください。**
- **切断中に本体をこじったり、強く押しすぎないでください。本体をまっすぐに静かに進めるようにしてください。**
  反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、のこ刃の寿命を短くします。
- **のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。**
  けがの原因になります。



のこ刃の取りはずし・取付け

切れ味の悪くなったのこ刃を取りはずし、新しいのこ刃を取付けます。

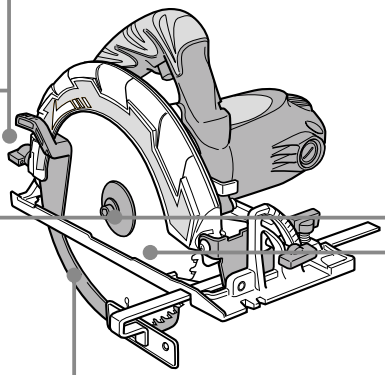
⚠警告

- のこ刃の取りはずし・取付けの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  思わぬ事故のもとになります。
- のこ刃の取りはずし・取付けの際は、安定した台や床の上で行ってください

●のこ刃の取りはずし

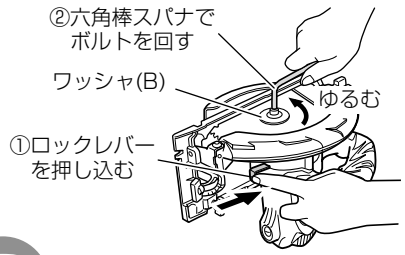
1 ちょうナット(切込み深さ調整用)をゆるめ、切込み深さを最大にします

(P13の❶参照)



2 のこ刃軸を固定します

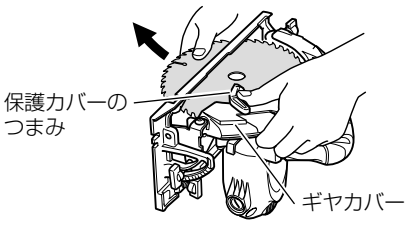
●ロックレバーを押し込みながら、付属の六角棒スパナ(5㎜)でボルトを反時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。この状態でのこ刃軸が固定されます。



3 六角棒スパナを反時計方向に回し、ボルトとワッシャ(B)をはずします

4 のこ刃を取り出します

●保護カバーのつまみを持って、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃を取り出します。



●のこ刃の取付け

1 ちょうナット(切込み深さ調整用)をゆるめ、切込み深さを最大にします

(P11の❶参照)

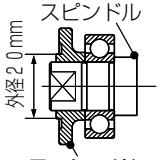
●スピンドルや、ワッシャ(A)、ワッシャ(B)に付いている切りくずをよくふき取ってください。

⚠警告

- ボルトの着脱は付属の六角棒スパナ(5㎜)で作業してください。
  付属以外の工具を使用すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

2 ワッシャ(A)の凹部をのこ刃側にして取付けます

●ワッシャ(A)は、穴径20㎜ののこ刃だけが取付けできるようになっています。

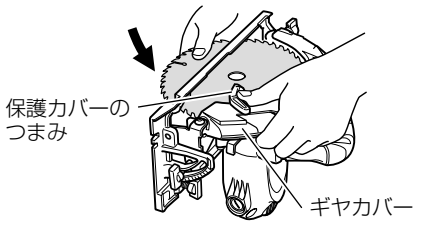


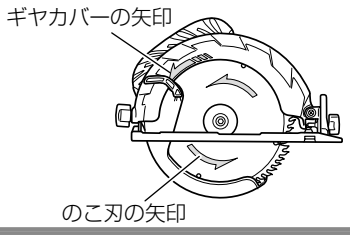
注

- ワッシャ(A)の取付け方向を誤ると、のこ刃を取付けることができません。
- ワッシャ(A)、ワッシャ(B)は必ず本体に取付けてあるものを使用してください。
- のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。

3 のこ刃を取付けます

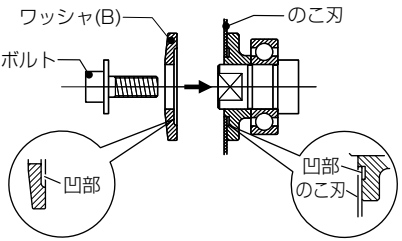
●保護カバーのつまみを持って、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃の矢印がギヤカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。





4 ワッシャ(B)の凹部をのこ刃側にして取付け、ロックレバーを押し込みのこ刃軸を固定して、六角棒スパナでボルトを時計方向に十分に締付けます

(P10の❹参照)



5 切込み深さを調整し、ちょうナット(切込み深さ調整用)を締付けます

(P13の❶参照)

点検・お手入れする

⚠警告

- 点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 切れ味の悪くなったのこ刃はそのまま使用しないでください。
  無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

●のこ刃の点検

切れ味が悪くなったまま使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。
新品と交換してください。

●本体はきれいに

石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類は変形の原因になるので使用しないでください。

●取付けねじの点検

時々点検して、ゆるんでいたら、締め直してください。
そのまま使用すると危険です。

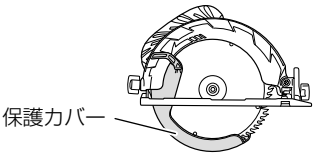
注 保管場所について

次の場所には保管しないでください

- お子様の手が届いたり、持ち出せる所。
- 直射日光の当たる所。
- 軒先など雨がかかったり、湿気のある所。

●保護カバーの動作点検と保守

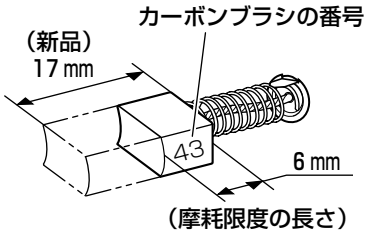
保護カバーは、いつも円滑に動作するようにしてください。なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。



●カーボンブラシの点検

カーボンブラシは消耗品です。長さが摩耗限度（6㎜）になりましたら、新品と交換してください。カーボンブラシは必ず2個同時に交換してください。

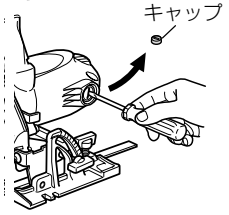
注 • 新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず図示の番号（43）の日立カーボンブラシを使用してください。指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。



●カーボンブラシの交換方法

1 古いカーボンブラシを取り出します

●マイナスドライバーなどでブラシキャップをはずして、古いカーボンブラシを取り出します。

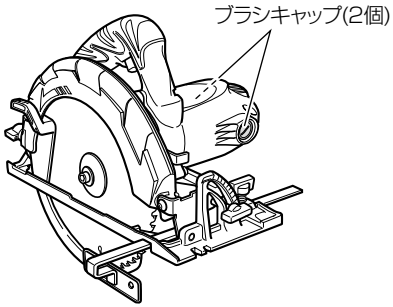


2 新しいカーボンブラシを取付けます

●ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。

3 ブラシキャップを取付けます

●ブラシキャップでカーボンブラシを押さえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。



別売部品の紹介

日立電動工具販売店でお求めください。
（別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

⚠警告

- **別売部品を使用の際も保護メガネを使用してください。**
- **丸のこベンチスタンドによる定置作業の場合は、事故防止のため、接触予防装置が必要です。**

のこ刃

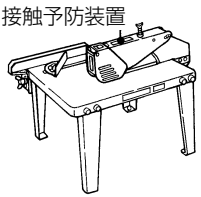
のこ刃やチップソーにつきましては、お買い求めの販売店または日立工機（株）の相談と修理の窓口にお問い合わせください。

丸のこベンチスタンド（接触予防装置付）

丸のこで定置作業をする場合に用います。

FC7－BS（FC 6 BB2・FC 7 BB2 用）

PS7－BS3（FC 6BB2・FC 7BB2 FC 6MA2・FC 7MA2 用）



故障かな…というときは

次の内容を点検してください。それでも直らない場合はお買い求めになった販売店または日立工機（株）の相談と修理の窓口にお問い合わせください。

症　状	考えられる原因	処　置
動かない。	・電源プラグがさし込まれていない。	・電源プラグをコンセントにさし込んでください。
	・カーボンブラシの長さが摩耗限度を超えている。	・新しいカーボンブラシと交換してください。（P20 参照）
切断が上手にできない。	・のこ刃の刃が古くなっている。	・新しいのこ刃と交換してください。（P17 参照）
直角に切断できない。	・ちょうナット、ちょうボルトがゆるんでいる。	・ちょうナット、ちょうボルトを締めてください。（P10 参照）
	・傾斜角度が合っていない。	・直角度を確認してください。（P16 参照）
保護カバーの動きが悪い。	・しゅう動部に異物、切りくず等がはさまれている。	・異物等を取り除いてください。

仕　様

形　名	FC 6MA2	FC 6BB2	FC 7MA2	FC 7BB2
使用電源	単相交流 50／60 Hz　共用 電圧 100 V			
最大切込み深さ	57 mm		68 mm	
のこ刃寸法	外径 165 ×穴径 20（mm） （外径160~165mm ののこ刃も使用可能）		外径 190 ×穴径 20（mm） （外径180~190mm ののこ刃も使用可能）	
無負荷回転数	5000 min^{-1} {5000 回／分}			
全負荷電流	11 A			
消費電力	1050 W			
モーター	単相直巻整流子モーター			
質量	3.0 kg（コードを除く）		3.3 kg（コードを除く）	
コード	2 心キャブタイヤケーブル 5 m			

アフターサービスについて

安全に能率よくご使用いただくために、定期的に点検に出されることをおすすめします。

正常に作動しないときは、ご自分で修理をなさらず、お買い求めの販売店または日立工機（株）の相談と修理の窓口にご依頼ください。

また、アフターサービスについてご不明の場合、その他お困りの場合は、お買い求めの販売店または日立工機（株）の相談と修理の窓口にお問い合わせください。

相談と修理の窓口一覧表

（家庭電気製品の表示に関する公正競争規約による表示）

丸のこについてのご相談や修理は、お買い求めの販売店へどうぞ。

この商品についてのご相談や修理は、お買い求めの販売店が承るようにしております。転居されたり、贈物でいただいた場合などでお困りの場合は、お近くの相談と修理の窓口にご相談ください。なお、相談と修理の窓口の所在地、電話番号など、変わる場合もありますので、その節は「電動工具お客様相談センター」をご利用ください。新しい所在地、電話番号をご案内いたします。

お買物相談、販売店のご紹介、総合的なご相談と修理についてのお問い合わせは…〔相談と修理の窓口〕へ

お住まいの地域	窓口の所在地	支店（部）名	電話番号
全　国	港　区	営業本部	(03) 5783 - 0626
北海道	札 幌 市	北 海 道	(011) 271 - 4751
青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	仙 台 市	東　北	(022) 288 - 8676
茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、千葉、神奈川、山梨、新潟、長野、静岡県富士川以東	台 東 区	東　京	(03) 5812 - 6331
岐阜、愛知、三重、静岡県富士川以西	名古屋市	中　部	(052) 262 - 3811
富山、石川、福井	金 沢 市	北　陸	(076) 263 - 4311
滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	大 阪 市	関　西	(06) 4796 - 8451
鳥取、島根、広島、岡山、山口	広 島 市	中　国	(082) 228 - 0537
徳島、香川、愛媛、高知	高 松 市	四　国	(087) 841 - 6191
福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	福 岡 市	九　州	(092) 621 - 5772

お客様メモ

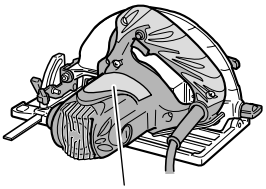
お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号（No.）などを下欄にメモしておかれますと、サービスを依頼されるときに便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日

販 売 店 名

☎（　　）　　—

製造番号（No.）



「電動工具お客様相談センター」　0120 - 208822（フリーダイヤル・無料）
※携帯電話からはご利用になれません。　（土・日・祝日を除く 午前 9：00 ～ 午後 5：00）
電動工具ホームページ—http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2-15-1（品川インターシティ A 棟）
国内営業本部　TEL（03）5783 - 0626（代）

608
部品コード C99155801